

特集

パンデミックは私たちに何を伝えたのか —これからの課題と希望—

特集2

京都精華大学と新型コロナウイルス

卒業生インタビュー

おおえ さきさん / Homecomings

木野

KINO PRESS.
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

通信

第76号

2021 July

パンデミックは 私たちに何を伝えたのか —これからの課題と希望—

2019年12月に、世界最初とされる新型コロナウイルス感染者が確認されてから約1年半が過ぎ、感染拡大防止対策として推進されている新しい生活様式も定着してきました。そのなかで、社会や地域、また大学という教育の現場では、どのような変化がもたらされたのか。見えてきた課題や今後の展望について、ウスビ・サコ学長が語ります。

地域の活性化と 集団意識の高まり

今回のパンデミックは、私たちの生活や社会を一変させました。それは、これまでの価値観を揺るがすものでしたが、同時に多くの気づきも与えてくれたと考えています。たとえば「多忙である」「時間がない」と仕事一辺倒の生活を送っていた人ならば、従来の仕事により合理的に進められ、コンパクトに収まることに

気づき、さらに家族や地域との関わりを見直す機会を得たかもしれません。たとえば、私自身も在宅時間が増えたことで自宅周辺をよく歩くようになり、自分の住む地域をさらにじっくり観察できるようになりました。専門分野であるコミュニケーションの観点から分析すると、日中に地域で活動する人が増加し、地域生活がより活性化されてきたように感じています。近所の方どうしがゆっくり話す機会も増え、相手への気遣いもより意

識されるようになってきました。つまり、人との関係がこれまで以上に重視されるようになり、集団意識が高まってきたといえるのではないのでしょうか。

コミュニケーションの 意義の再考と拡張

コミュニケーションのあり方にも変化が見られます。これまでは情報伝達を主な目的とし、簡略化が進んできましたが、

コロナ禍でさまざまな制限を余儀なくされ、人々はその意義を改めて考えるようになってきました。コミュニケーションは、他者を安心させる材料や、相手との距離を縮める手段として、より強く意識されるように変化してきたのです。

また、コロナ禍で主流となったオンラインによるコミュニケーションの場も、多くの発見をもたらしています。たとえば従来の飲み会のように外食する場合、人々はそれなりによそいきの体裁で集まっています。しかし、自宅から参加するオンライン形式では、リラックスした態度や生活の場の様子など、意外な発見にあふれています。場所にとらわれず参加しやすい手段が選べるようになり、コミュニケーションの機会はさらに増え、拡張していくことになるでしょう。

教育現場が直面した課題と そこから見えてきたこと

大学では、コロナ禍での教育機会を確保するためにオンラインの活用が選択されました。学生たちにとって、自宅にいながら、周りを気にせず授業を受けられるという初めての経験は刺激的であり、集団を好まない学生の出席率が高まるという現象もみられました。しかし、徐々に限界が見えてきて、授業を受けている仲間が見えない淋しさや自己管理の難しさが、モチベーションの低下につながりました。そこで本学では2020年10月から対面による授業を再開し、2021年度は全体の約80%が従来の形に戻っています。

このような環境の変化を背景に、大学で大きな議論となったテーマが二つあります。一つは「学費」であり、何に対する費用なのかを再考する好機となりました。仮にオンラインによる授業だけであれば、合理的に計算できるでしょう。しかし大学教育は施設、教員、職員と複合的な構成からなり、学生はそこから、自身の成長と将来に役立つことやモノを選択して、蓄積していきます。それらすべてへの対価が学費であり、ひとつの要素だけで考えることはできません。

二つ目は「キャンパスの役割」です。人間形成の途中にある学生たちにとって、キャンパスで偶発的な出来事を体験したり、人と出会ったりすることが非常に重要です。そのことを私たちは再認識し、広く伝えていきたいと思っています。

学内でのコロナ対策と 学生たちの取り組み

学内のコロナ対策では、感染防止に万全を尽くす一方で、集団的混乱を起こさないよう、指導に尽力してきました。その結果、公共に対する個人の責任という認識が高まったと感じています。有志の学生によってコロナ禍の学生生活を考えるオープンディスカッションも開催されました。現状の課題や悩んでいることについて学生と教員がともに考え、自分たちができることを議論する場が設けられたのです。精華の精神である「自由自

治」は、「自由には責任が伴う」という考えが核になっています。学生によるこうした取り組みこそ「自由自治」の体現であると感じ入った出来事でした。



世界有数の観光都市、 京都のこれから

京都も変革の時代を迎えています。これまで、「地元の人たちが大切にしていく京都」と「観光客向けの京都」、この二面性が顕著でした。そのなかで観光客向けは主に、観光に携わる外部の人たちによってつくられてきました。いわば、観光に対しては傍観者でもあった京都の人々ですが、今後は自らが中心になり、外部に対する魅せ方や伝え方を考えていくことが大切ではないかと思えます。さらに世界有数の観光都市として、政策に

付き従うだけでなく、海外に向けた独自の案が欲しいところです。京都の新しい自治に学生たちが協力することは自然な流れであり、大学の存在意義のひとつでもあると考えています。

自由とは何か

コロナ禍では、さまざまな制約を受け、不便や不自由を感じている人が多いでしょう。しかし、自由とは何でしょうか。まず思い浮かぶのが「欲求がすぐに満たされること」で、これは便利さとモノやお金に直結しています。では、そうではない現状は、本当に不自由なのでしょうか。距離の制約からは解放された、時間、モノ、コストも最小限で済み、自由度が高まったとも考えられます。逆に言えば、これまで私たちは常に欲求し、モノやお金に縛られてきたわけです。今回の経験は、「自分自身を解放する、本当の自由とは何か」を考える良い機会ではないでしょうか。

振り返ると、私たちは大きな環境の変化のなかで、さまざまな気づきや問いを持つようになりました。仏教の教えにもあるそうですが、「問いに辿り着く力」はとても重要です。将来を担う学生たちには、ぜひ自ら問いを立て、答えが見つからないときは、原点に戻って考えてほしい。そうした問いのチカラを合わせれば、また新たな気づきが生まれると思います。



オープンディスカッション、『SEIKAを「みんなで作る」Creating SEIKA Together』の様子

京都精華大学と 新型コロナウイルス

京都精華大学では、さまざまなコロナ対策で学びや学生生活を支援してきました。その取り組みを、担当者へのインタビューで振り返りつつ、見えてきた課題や今後の方向性について考えます。

THEME 1 授業



教務部長
高藤 光

変化を前向きに捉え、新しい学びのシステムを構築したい

感染症による
社会の変化を理解する

新型コロナウイルスの世界的流行に直面し、学生には、その状況にはどのような意味があるのかについて理解を深めてもらうことが不可欠だと考えました。私の授業では、ウィリアム・ハーディー・マクニール『疫病と世界史』山本太郎『感染症と文明―共生への道』を紹介しながら、感染症はいつでもやってくるもので予測や制圧は難しいことや、感染症や疫病によって起こる社会の変化について考えてもらいました。大学の学びのシステムも変化を余儀なくされました。遠隔授業によって得られた、どこにいても同じ時間を共有でき、何度でも繰り返し授業を見返すことができる便利さのインパクトは大きなものでした。しかし一方で、遠隔

授業と対面授業との両者の違いも明らかになりました。ディスカッションなどは遠隔と対面とで質的に大きく異なるものになるため、今後、両者の違いを意識した指導法を検討し続けていく必要があると思います。

大学という場所に来る意味を 問い直す

コロナ以前の学びのシステムには、もう戻れません。それを嘆くのではなく、むしろ変化を前向きに捉え、全く新しい学びを組み立てていく必要があると思います。たとえば、複数のモニターを備えたスタジオをつくり、先端的な遠隔授業を全世界に配信することも可能です。本学の強みを活かし、マンガやアニメなどの分野で遠隔教育をリードするようなプログラムを生み出

すこともできるでしょう。また、遠隔授業の普及で「大学という場所に来る意味」も問い直されます。芸術系では、施設や設備を使ってここのでなければできない制作を行うという、ある種分りやすい指導があります。人文系でも、それに匹敵するような意味を見出すために、たとえば「京都精華大学にしかない」資料や図書を充実させることも大切になってくるかもしれません。さらに、遠隔と対面、双方のメリットを活かした学びの検討も重要でしょう。たとえば遠隔授業は曜日や校時を特定せずオンデマンドでいつでも学べ、対面授業は「その場」性を活かすなどの仕組みを整備する必要があります。学生自身が自分の学びに合わせて組み立てられる、柔軟な学びのシステムを実現させていきたいと思っています。

2020年度 京都精華大学の 新型コロナウイルス 感染拡大に伴う学生支援

●奨学金の拡大

「緊急学修継続奨学金」の支給

学生が安心して学修を継続するための緊急支援として、遠隔授業を受けるための通信学修環境の整備、およびコロナ感染拡大による経済的影響に対応するための奨学金。

↓1人一律50,000円を計3041名に支給。支給率94・1%。

家計急変奨学金（給付）の拡充
学費思弁者の家計の急変により授業料の納付が困難となった在学学生に対し、これまでも設けていた家計急変奨学金制度をより拡充して学修の継続を支援した。

↓利用者30名のうち、新型コロナウイルスが理由で利用した者は24名。

短期奨学貸付金（貸与／無利子）の拡充
経済的に困窮して緊急の出費を要する在学学生に対して、救急的に援助・貸付けし、学生生活の維持を支援。既存の短期奨学貸付金制度の貸付額3万円から10万円に増額し、返済期限を年度内に延長した。

↓2名が利用。

●学修環境の整備

受講用タブレットの貸与

遠隔授業を円滑に進めるにあたり、受講のための情報機器の準備が整っていない在学生を対象に、情報端末（タブレット）を無償で貸与した。

↓iPadを45台貸し出し。

図書貸出の郵送サービスの実施
キャンパス入構禁止により情報館が利用できない状況となったため、在学生の学修・研究生活の充実を図るため、郵送で貸し出しを行った。

↓161件、410冊を郵送。

2020年5月11日～9月30日。
後期からは開館した。

WiFi利用教室の開放

自宅等で遠隔授業が受講できない学生のために、WiFi利用教室を開放。

※募集活動や入学試験も一部オンラインを活用して実施しました。

THEME 2 学生支援



学生グループ長
出口尚宏

学生の気持ちを支えられるよう、できることはすべてやる

情報提供、相談、
つながる場の支援

コロナ禍は当たり前の学生生活を奪いました。日常生活も困難になるなかで、何とか状況に適応していこうと努力する学生たちの気持ちを支えられるよう、問い合わせや相談には親身な対応を心がけました。

経済的に困窮している学生に対しては、各種奨学金に関する情報提供と相談体制を強化し、バックアップに努めました。障害のある学生への支援では、授業が遠隔化したなかでもサポートができるよう、オンラインでの支援体制を新たに整備し、学修環境の確保に取り組みました。

状況変化への 素早い対応が重要

入国制限等で日本に入国できなくなった留学生は少なくありません。本学の学びの機会を損なわないための配慮として、次年度への入学延期特別措置や休学手続期間の延長を行いました。しかし、現在でも多くの留学生が入国できていないことに、歯がゆさや心苦しさを感じています。

キャリア支援では、オンラインで就職相談や面談指導ができる体制をいち早く整え、個別に電話による声かけも実施しました。苦しい状況下で、多く



コミュニケーションツールの変化に適応できるよう支援体制を整備

の学生が自分の目標に向かって根気強く活動した成果は、昨年度卒業生の就職率がコロナ禍以前と比較しても大きく減少していないことに表れていると思います。

コロナ禍では学生を取り巻く環境が日々めまぐるしく変化するため、従来の対応の見直しや新たな取り組みの試行など、素早い対応の必要性を感じました。また、学生支援において学生の状況が見える対面でのコミュニケーションがいかに重要だったかも痛感しました。遠隔のメリットやデメリットも考慮したうえで、これからも学生たちが何に困り、悩んでいるのかを理解するよう努めたいと思います。





4人の絆が生み出す、繊細で心地よい調べに
思いやりと社会へのメッセージを込めて



好きなモノ、心の琴線に触れたコトから
どこまでも世界を広げていきたい

Homecomings

4ピースバンド

福富 優樹さん 人文学部 総合人文学科 国際コミュニケーションコース 2014年卒業
豊野 彩加さん 人文学部 総合人文学科 国際コミュニケーションコース 2014年卒業
石田 成美さん 人文学部 総合人文学科 現代文化表現コース 2013年卒業
福田 穂那美さん 人文学部 総合人文学科 現代文化表現コース 2013年卒業

卒業生インタビュー

独自の道を歩む京都
現在の活動や今後の夢、

精華大学の卒業生に、
セイカの思い出を伺いました。

おおえさきさん
Saki Ooe

イラストレーター・漫画家
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科
デジタルクリエイションコース
2015年卒業



Major 1st Album『Moving Days』発売中

2012年、セイカの在学中に結成された4ピースバンドHomecomings。学内のフォークソング部で出会った4人は、『FUJI ROCK FESTIVAL』への出演をきっかけに卒業後、本格的な活動を開始します。ライブやアルバムリリースだけでなく、映画『愛がなんだ』の主題歌なども手掛け、2021年5月には、ROR Recordsからメジャーデビューするに至りました。

躍進するHomecomingsの作詞とギターを担当する福富優樹さん、ベースを担当する福田穂那美さんに仕事の楽しさを尋ねると、「4人でいること自体が楽しいし、そうでないと続かない」と同じ答えが返ってきました。さらに福富さんは「メンバーと話し合うなかで明確になる想いを文章にし、Homecomingsらしい表現で発信できることが魅力」と目を輝かせます。



セイカの思い出
イベント出店やグループ展の開催などを通して、創作活動の幅を広げていきました。

イラストレーター・漫画家として活動し、2021年春からはTMS-XOTOで番組のDJを務めているおおえさきさん。2017年に、京都府相楽郡精華町のPRに使うキャラクターデザインやイラストの制作に携わったのをきっかけにフリーランスへの道へ。その後、積極的にコンテストに挑戦し、2019年に伊賀市主催のコミュニケーションデザインコンテストで最優秀賞を受賞。おおえさんがデザインした『忍者ざっしり』の目を惹くバスが、今も伊賀市内を走っています。また同年、淡交社主催の『ぼくらの京都マンガコンテスト』で佳作入りしたのを機に出版された『ショート・ショート・キョート』では、独自の目線で切り取った京都の日常に潜む味わい深さを、ユーモアあふれるショートマンガと端的な文章で紹介しています。そのなかでTMS-XOTOを登場させたことが、ラジオDJの仕事にもつながりました。

「セイカで好きだったことのトップ3は、飯電での通学と、ちよっとした空き時間での小旅行、それから、情報館など

『優しさ』を中核においた楽曲のなかで、世の中の出来事や問題に対するメッセージをどんなバランスで投影するのかが苦心のしどころで、その社会的視点や創作のエッセンスは、セイカ時代に得たものが多いそうです。「特に情報館には、BGMで流れていたシカゴのバンドThe Suburban Copsのアルバムをはじめ、感銘を受けるものが沢山ありました」と福富さん。

そんなセイカでの始まりから9年を経た今、彼らは新しい扉を開くとともに自身の引き出しを充実させる必要性を感じています。「東京に拠点を移しましたが、やっぱり京都が恋しくて。京都での活動を増やし東西、両方の文化を楽しみながら挑戦し続けたい」（福富）。「無理せず自然体でいることがHomecomingsの音楽性につながっています。そのことを大切にしながら共に成長したい」（福田）。深い絆で結ばれた4人の輝ける未来に期待が膨らみます。



セイカの思い出
在学中にフジロックフェスティバルに出演。憧れのバンドが間近で観られて嬉しかったです。

写真：鈴木悠太郎

「自分の心を動かすモノやコトを、イラストやマンガに限らず、文章、アニメーション、音声などのさまざまな手法で表現し、幅広い分野に挑戦したい。めざすのは、心地よい風を感じてふわりと気持ち軽くなり、視野が広がるような、そんな世界観です。おおえさんのフィードは、これからは際限なく広がっていくそうです。

さまざまな情報を得ること。とにかく思いっきり活動しましたね」と語るおおえさん。在学中にはどんな課題でも前向きに取り組み、大学の環境をフルに活用してインプットを重ねたそうです。他大学の友人とアートユニットを組み、雑貨を制作して販売したことも。そうやって蓄えた知識と経験からつくられた引き出しの多さが、どんなジャンルの依頼が来ても対応できる、柔軟なクリエイションの源になっています。



独自の視点で京都を描き、多くの共感を生んだ『ショート・ショート・キョート』（淡交社）

2021年度役職者・入職教職員、2020年度退職教職員一覧

2020年度をもって37名の教員、13名の職員が退職となりました。これまでのご活動に深く感謝するとともに、益々のご健康とご活躍をお祈りいたします。2021年度からは44名の教員、17名の職員が入職されました。新しい教職員の方々を迎え、ますます研究・教育の発展に力を注いでまいります。

2021年度 役職者

学長 ウスヒサコ	副学長 吉岡恵美子 蘆田裕史	教務部長 斎藤光	学生部長 三河かおり	入学部長 葉山勉	国際文化学部長 稲賀繁美	メディア表現学部長 吉川昌孝	芸術学部長 佐藤光儀	デザイン学部長 森原規行	マンガ学部長 姜竣	ポピュラーカルチャー学部長 吉川昌孝(兼任)	人文学部長 稲賀繁美(兼任)	芸術研究科長 池垣タタヒコ	デザイン研究科長 中村光宏	マンガ研究科長 都留泰作	人文学研究科長 高橋伸一	理事長 石田涼	専務理事 吉村和真	常務理事 細谷周平
-------------	----------------------	-------------	---------------	-------------	-----------------	-------------------	---------------	-----------------	--------------	---------------------------	-------------------	------------------	------------------	-----------------	-----------------	------------	--------------	--------------

2021年度 新任教職員

※2021年7月1日時点

【教員】	国際文化学部 学部共通 中岡樹里	人文学科 恵阪友紀子 セシルラリ 堀井佳代子	グローバルスタディーズ学科 稲賀繁美 緒方しらべ 中尾沙季子 ナンミヤケーカイン 羽田正(客員)	メディア表現学部 アティカス・シムズ アイアン・コンドリー(客員)	伊藤ガビン 黒田貴泰(客員) 高樫佳織 戸田康太 松村慎 ミカエル・ピヨルン(客員) 吉川昌孝	芸術学部 葛本康彰 宮永亮	デザイン学部 学部共通 谷本尚子	●イラストコース ホウガテイ 米津智之	ビジュアルデザイン学科 齋藤精(客員) 高田唯(客員)	プロダクトデザイン学科 金谷勉(客員) 藤田知里 協聡(客員)	●ファッションコース 福岡絹恵	●建築コース 川上聡 ベーター・ルーゲ(客員)
------	------------------------	---------------------------------	---	---	---	---------------------	------------------------	---------------------------	-----------------------------------	--	--------------------	-------------------------------

マンガ学部 マンガ学科 左(客員)	●カートゥーンコース 岡本秀	●ストーリーマンガコース 石田葉月 つづき萌重	●新世代マンガコース 河谷大地	●キャラクターデザインコース 小川剛 二見央 睦月ムンク	●アニメーションコース 久保木要	●人間環境デザインプログラム アンドレア・フロレス・ウルシマ 河井敏明	【職員】	グローバル推進グループ 井口浩子	学生グループ 宮島直子	教学グループ 安齊夏生 石井美寿々 四間丁愛 渋谷朋代	広報グループ 上野直子 橋下昂平 渡邊誌津子	入学グループ 鈴木美智子 野瀬瑛里子	総務グループ 後田美佳 谷田和子 矢竹朱里	経営企画グループ 若林麻由佳	京都国際マンガミュージアム 大谷景子
-------------------------	-------------------	-------------------------------	--------------------	---------------------------------------	---------------------	---	------	---------------------	----------------	---	---------------------------------	--------------------------	--------------------------------	-------------------	-----------------------

2020年度 退職教職員

【教員】	芸術学部 池田亮司(客員) おかげんた(客員) 岡崎乾二郎(客員) 原田悠輔	デザイン学部 浅葉克己(客員) 新井清一 荒井良二(客員) 石川九楊(客員) 大八木夏生 木村雅彦(客員) 小山格平 笹口数 宿利由希子 鈴木由希子 高松伸(客員) タナカカツキ(客員) 島海修(客員) 福田哲夫(客員) 森口美緒 山本容子(客員)	マンガ学部 石岡正人(客員) さそうあきら 佐藤結花 杉井ギサブロー(客員) 知念瑠 中野晴行(客員) 橋本佳奈 村田蓮爾(客員) 山田章博(客員)	ポピュラーカルチャー学部 谷川充博 ナイジエル・ケーボン(客員) 藤原ヒロシ(客員)	人文学部 内田樹(客員) 兼松佳宏 栗巢満 柳沢菜々	国際マンガ研究センター すがやみつる
------	--	--	---	---	--	-----------------------

【職員】	グローバル推進グループ 赤尾木織音	学長室グループ 彌永えりか 山本優子	教学グループ 大道悠姫 藤田愛 前田真衣	総務グループ 片部ゆり 西川陽子 森脇順子 和田千夏	入学グループ 三島航平
------	----------------------	--------------------------	-------------------------------	--	----------------



1. ALTI「Re:つくもがみ」(2021年3月)リハーサル風景より(伊奈)
2. 「京都精華大学創立50周年記念式典」祝賀会の総合演出を担当した(大下)
3. 学生がデザインした京北宇津地域案内看板(田村)

学生との活動をSNSで発信。
ぜひオンラインで遊びに来て。

京都精華大学とつながる
卒業生たちに頼もしさを感じる。

コロナ禍のなか卒業生有志が、
「最終講義」を企画してくれた。



田村 有香
国際文化学部 人文学科



大下 大介
メディア表現学部 メディア表現学科



伊奈 新祐
芸術学部 映像専攻

2000年、人文学部に環境社会学科ができた年に着任しました。学生たちと立ち上げた「フラメンコ同好会」も、20年以上の活動実績を持つ公認サークルになりました。その他にも以下の学生団体と一緒に活動しています。「京北宇津宝さがし会」では、高齢化・過疎化の進む右京区京北宇津地域で地域の方々と学生が交流するプロジェクトを進めています。「Green Life」はTwitterとInstagramで環境情報を発信するサークルです。「人文学部・国際文化学部 スチューデント・コモンズCasa」は有志の教員と学生で学部を盛り上げていこう、という団体です。卒業生のみなさん、木野は遠くても、SNSで遊びに来てください。

京都精華大学で出会った学生が卒業する際、「いつか一緒に仕事しましょう」ということを伝えてきました。年々、それが実現していくことが、とても心強く思います。教員として、就活セミナーの講師として、広報物のデザイナーとして、さまざまなカタチで京都精華大学とつながっている卒業生には頼もしさを感じます。2021年度からは新設された「メディア表現学部」に移り、新1年生とお話ししながら、目の前の学生もいつか本学で一緒に仕事ができ、これからの精華をつくる人たちになるだろうな、とイメージすると楽しさが止まりません。卒業生のみなさんには、これからも精華大学とつながり、後輩を力強くサポートしてくれることを願います。

1990年から約30年間在籍し、2021年3月に専任教員を退職しました。2月末にコロナ禍での「最終講義」を卒業生有志が企画してくれましたので、zoomを併用したハイブリッド形式で実施できたことに感謝します。現在は「シニア教員」として大学院を中心に授業を担当しています。近年、『ヴィデオ・アートの歴史』(三元社、2013)、『モーション・グラフィックスの歴史』(三元社、2019)などの翻訳書を出版しました。制作面では、京都府立府民ホール“アルティ”でのアーティスト・プロジェクトに参加して、映像演出を担当しています。現在、来年3月の公演の準備をしていますので、ぜひ観に来てほしいと思います。



木野からヤッホー

あの先生元氣かな...？
そう思っている卒業生のみなさんへ、
セイカの教員からのメッセージです。

多彩な専門家を招いた講演会をWEB配信

毎年恒例の公開トークイベント「アセンブリーアワー講演会」を、WEB配信とあわせて実施。2020年11月5日(木)には、70年代初頭にウーマンリブ運動を牽引し、現在は鍼灸師として活動される田中美津氏を迎えて、「ウーマンリブ運動から50年、『田中美津という生き方』から視えた世界」を開催しました。ウーマンリブ運動がはじまった当時についてや、昨今の#metoo運動について思うことをお話しくださいました。

2021年1月14日(木)には、「光の話」をテーマに、現代美術作家・マンガ家の小林エリカ氏が登壇。小林氏は、目には見えないけれど確実に存在するものをテーマに

マに作品をつくり続けています。今回は、小林氏がなぜ「光」に興味を持つようになったのか、また、家族からの影響など、個人史が自身の作品制作とどうつながっているかを語っていただきました。

2月11日(木)には、「マーガレット・ハウエルと開化堂、変わらない変わり方ー時間を取り込んだ物づくり」と題して、クロージング・ブランド「マーガレット・ハウエル」で長年デザイナーを務めてきた池田賢一氏にご講演いただいたほか、池田氏と茶筒の老舗「開化堂」の六代目・八木隆裕氏による対談、マーガレット・ハウエルご本人から在学生へのメッセージをいただきました。



アセンブリーアワー講演会
「ウーマンリブ運動から50年、『田中美津という生き方』から視えた世界」 田中美津
2020年11月5日(木)

「光の話」 小林エリカ
2021年1月14日(木・祝)

「マーガレット・ハウエルと開化堂、
変わらない変わり方ー時間を取り込んだ物づくり」
池田賢一、八木隆裕
2021年2月11日(木)

学生・教職員のみ学内会場／学外・一般の方へはWEB配信

ミャンマーの軍事クーデターをテーマに緊急シンポジウム開催



緊急WEBシンポジウム

ミャンマーの今を考える

ーミャンマーとクーデターの現状分析

基調講演 中西直実（京都大学東洋学アジア地域研究センター 准教授）
パネリスト 中西直実（京都大学東洋学アジア地域研究センター 准教授）
ジュラルド・マッカーシー（シンガポール・マッカーシー（シンガポール・マッカーシー）
後藤修身（政治家（ミャンマー在住））
コメンテーター ナンミャー・カイン（京都精華大学経営学専攻 准教授）
モデレーター ウスビ・サコ（京都精華大学学生 元大学アフリカ・アジア現代文化研究センター）
主催：京都精華大学アフリカ・アジア現代文化研究センター

日付 **2021年3月9日**
時間 **19:00-21:00**
Zoomで開催（要申込・無料）

「ミャンマーの今を考えるー
ミャンマーとクーデターの現状分析」
2021年2月1日(月) WEB配信

YouTube チャンネルで
アーカイブ動画配信中



第一線で活躍するゲストが精華大生のために語る、キャリア講座を開催

キャリア支援チームでは、全学共通の科目「クリエイティブの現場」との共同開催として、在学生なら誰でも受講できるオンライン講座を開講しています。

この講座では、第一線で活躍する方々から、企画、メディア展開、プロモーションの手法を学ぶことができます。2021年度は、トップモーションアニメ「PUI PUI モルカー」エグゼクティブプロデューサーの杉山登氏や、「NieR: Automata」ドラッグオンドラグリーン」などの作品で知られるゲームディレクターであるヨコタロウ氏、「ドラゴンクエストXI」や「ラブライブ！」の開発会社として知られるLCA代表



キャリア講座
2021年度キャリア科目「クリエイティブの現場」との共同開催

取締役の岩崎拓矢氏、伝統工芸を活かした生活雑貨を企画する中川政七商店の渡瀬聡志氏など幅広いゲストを迎え、アイデアを生み出すコツや働くうえで大事にしていることなど、在学生に向けてお話しくださいました。

ほかにも、女性に力を与えるメディア「BLAST」や女性特有の悩みや社会課題をテクノロジーで解決することをめざす「フェムテック」のブランドを運営する石井リナ氏をお迎えし、ジェンダーをはじめとした社会問題に対して、クリエイティブやビジネスから解決に向き合う考え方について学ぶなど、自身の興味を広げ、社会に接続する契機ともなっています。

政治思想や社会に依存しない「表現」のあり方

坂本龍一氏と本学のウスビ・サコ学長による、岡本清一記念講座「分断は止められるかーいま、表現と自由を考えるー」が2020年12月19日(土)に開催されました。今回は、コロナ禍のなかで明らかになったさまざまな社会問題について意見を交換し、これからの「表現」のあり方とその可能性について探りました。

コロナ禍では、あらゆる生活環境が悪化して追いつまれない人がいる一方、経済活動だけを加速させてやるとする人もおり、社会の歪みが明らかになりました。サコ学長は、「人間は自分たち自身で社会を破壊しているのではないか？この流れを止めることができない

のだろうか」と問いかけ、坂本氏は「身近な環境や生活を見つめなおす機会にもなった。今こそ立ち止まり、経済資本だけではない価値を考える機会ではないか」と応答しました。

「表現」のあり方について、坂本氏は「表現は、政治的思想や社会に依存するのではなく自立しなくてはならない」と語り、自分の思うことを発信し続けていく意志を示しました。

最後に坂本氏から若い人へのメッセージとして、「若者たちは僕たち年長者の意見などに気にせず、どんどん新しいアイデアを生み出して社会を変えていってほしい」と激励の言葉を述べられました。



「分断は止められるかーいま、表現と自由を考えるー」
坂本龍一×ウスビ・サコ
2020年12月19日(土) WEB配信

YouTube チャンネルで
アーカイブ動画配信



貸借対照表

(単位:円)

	科 目	本年度末	前年度末	増 減
資産の部	固定資産	25,516,952,202	24,696,713,030	820,239,172
	有形固定資産	17,472,569,074	16,534,859,446	937,709,628
	土地	4,214,991,704	4,214,991,704	0
	建物	10,467,932,809	10,282,419,481	185,513,328
	構築物	92,091,367	109,807,828	△17,716,461
	教育研究用機器備品	768,519,498	750,726,679	17,792,819
	管理用機器備品	24,724,568	24,482,848	241,720
	図書	1,158,704,839	1,152,396,765	6,308,074
	車両	9	34,141	△34,132
	建設仮勘定	745,604,280	0	745,604,280
	特定資産	7,854,490,237	7,952,387,637	△97,897,400
	第3号基本金引当特定資産	150,000,000	150,000,000	0
	退職給与引当特定資産	1,265,727,116	1,365,727,116	△100,000,000
	減価償却引当特定資産	6,438,763,121	6,436,660,521	2,102,600
	その他の固定資産	18,892,891	209,465,947	△19,573,056
	電話加入権	3,633,424	3,633,424	0
	ソフトウェア	20,880,022	29,030,849	△8,150,827
	長期貸付金	160,623,235	172,036,354	△11,413,119
	保証金	4,756,210	4,765,320	△9,110
	流動資産	3,678,412,254	3,877,404,984	△198,992,730
現金預金	3,489,227,656	3,611,630,129	△122,402,473	
未収入金	11,507,369	190,581,132	△173,073,763	
貯蔵品	18,713,090	16,702,796	2,010,294	
短期貸付金	28,678,620	28,918,620	△240,000	
立替金	10,179,812	7,270,384	2,909,428	
前払金	14,105,707	22,192,230	△8,086,523	
預け金	0	109,693	△109,693	
資産の部合計	29,195,364,456	28,574,118,014	621,246,442	

(単位:円)

	科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部	固定負債	3,002,698,763	2,329,202,914	673,495,849
	長期借入金	1,625,128,000	957,474,000	667,654,000
	退職給付引当金	1,377,570,763	1,371,728,914	5,841,849
	流動負債	1,370,390,541	1,520,954,724	△150,564,183
	短期借入金	235,014,000	378,768,000	△143,754,000
	未払金	158,251,797	165,239,269	△6,987,472
	前受金	814,469,045	823,452,620	△8,983,575
	預り金	162,655,699	153,494,835	9,160,864
	負債の部合計	4,373,089,304	3,850,157,638	522,931,666
純資産の部	基本金	30,510,641,355	29,521,149,803	989,491,552
	第1号基本金	29,936,641,355	28,947,149,803	989,491,552
	第3号基本金	150,000,000	150,000,000	0
	第4号基本金	424,000,000	424,000,000	0
	繰越収支差額	△5,688,366,203	△4,797,189,427	△891,176,776
	翌年度繰越収支差額	△5,688,366,203	△4,797,189,427	△891,176,776
	純資産の部合計	24,822,275,152	24,723,960,376	98,314,776
	負債及び純資産の部合計	29,195,364,456	28,574,118,014	621,246,442

決算および予算について

学校法人京都精華大学の2020年度決算および、
2021年度予算についてご報告いたします。

2020年度決算について

2020年度の事業活動収入は前年度から4億6千万円増加し、59億3千万円でした。このうち学生納付金は83.0%を占めています。

事業活動支出（人件費・経費等）は58億3千万円で、当年度の基本金組入前収支差額は1億円の収入超過となりました。また、基本財産取得に関わる金額を示す基本金組入額は9億9千万円となりました。当年度には、2020年度末に竣工した愛智館（新教室棟）の建設工事費用や、2021年度末竣工予定の明窓館の建替え工事にかかる着手金等を施設関係支出として支払いました。これらにより、主な本体内工事の費用については市中金融機関からの新規借入金を組み入れたため、基本金組入額に含んでいませんが、それ以外の自己資金による施設関係支出や設備関係支出等を当年度の第1号基本金として充当したため、基本金組入後の翌年度繰越収支差額は支出超過額が56億9千万円に増加しました。

支払資金(現金・預金)は前年度比1億2千万円減の34億9千万円となりました。大学の資産全体としては固定資産の増加などにより6億2千万円の増加です。また、前述のとおり校舎建設・建替えのための新規借入を行ったこと等により、負債も5億2千万円増加しました。したがって、純資産は1億円の増加となります。

以上の結果、純資産構成比率は1.5ポイント低下し、85.0%となりました。

事業活動収支予算書

(単位:円)

		科 目	金 額	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,333,306,000	
		手数料	95,230,000	
		寄付金	28,500,000	
		経常費等補助金	405,044,000	
		付随事業収入	283,746,000	
	事業活動支出の部	雑収入	226,456,000	
		教育活動収入計	6,372,282,000	
		人件費	3,313,440,000	
		教育研究経費	2,095,711,000	
		管理経費	553,903,000	
教育活動外収支	事業活動収入の部	教育活動支出計	5,963,054,000	
		教育活動収支差額	409,228,000	
		事業活動支出の部	受取利息・配当金	64,456,000
			教育活動外収入計	64,456,000
			借入金等利息	22,048,000
	教育活動外支出計		22,048,000	
	教育活動外収支差額		42,408,000	
	特別収支	事業活動収入の部	経常収支差額	451,636,000
			資産売却差額	1,970,000
			その他の特別収入	15,500,000
事業活動支出の部		特別収入計	17,470,000	
		資産処分差額	8,000,000	
		特別支出計	8,000,000	
		特別収支差額	9,470,000	
(予備費)		0		
基本金組入前当年度収支差額		461,106,000		
基本金組入額合計		△356,753,000		
当年度収支差額		104,353,000		
前年度繰越収支差額		△5,688,366,203		
翌年度繰越収支差額		△5,584,013,203		
(参考)				
事業活動収入計		6,354,293,000		
事業活動支出計		5,993,102,000		

資金収支予算書

(単位:円)

科 目		金 額
収入の部	学生生徒等納付金収入	5,333,306,000
	手数料収入	95,230,000
	寄付金収入	41,500,000
	補助金収入	405,044,000
	付随事業・収益事業収入	283,746,000
	受取利息・配当金収入	64,456,000
	雑収入	226,456,000
	借入金収入	1,249,000,000
	前受金収入	638,302,000
	その他の収入	1,086,378,000
資金収入調整勘定	△914,290,000	
前年度繰越支払資金	3,489,227,656	
収入の部合計	11,998,355,656	
支出の部	人件費支出	3,306,163,000
	教育研究経費支出	1,576,356,000
	管理経費支出	528,091,000
	借入金等利息支出	22,048,000
	借入金等返済支出	243,671,000
	施設関係支出	1,338,985,000
	設備関係支出	328,230,000
	資産運用支出	950,000,000
	その他の支出	170,752,000
	(予備費)	0
資金支出調整勘定	△113,000,000	
翌年度繰越支払資金	3,647,059,656	
支出の部合計	11,998,355,656	

事業活動収支計算書

(単位:円)

		科 目	金 額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,922,357,500
		手数料	94,618,447
		寄付金	50,619,893
		経常費等補助金	524,653,847
		国庫補助金	518,256,896
		地方公共団体補助金	6,396,995
	事業活動支出の部	付随事業収入	110,353,435
		雑収入	124,742,092
		教育活動収入計	5,827,345,214
		人件費	3,007,847,947
		教育研究経費	2,207,050,612
		管理経費	461,950,261
		徴収不能額等	0
	教育活動支出計	5,676,848,820	
	教育活動収支差額	150,496,394	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	73,041,181
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	73,041,181
	事業活動支出の部	借入金等利息	19,607,911
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	19,607,911
	教育活動外収支差額	53,433,270	
特別収支	事業活動収入の部	経常収支差額	203,929,664
		資産売却差額	5,931,994
		その他の特別収入	23,798,342
		特別収入計	29,730,336
	事業活動支出の部	資産処分差額	127,682,704
		その他の特別支出	7,662,520
		特別支出計	135,345,224
		特別収支差額	△105,614,888
	基本金組入前当年度収支差額		98,314,776
基本金組入額合計		△989,491,552	
当年度収支差額		△891,176,776	
前年度繰越収支差額		△4,797,189,427	
翌年度繰越収支差額		△5,688,366,203	
(参考)			
事業活動収入計		5,930,116,731	
事業活動支出計		5,831,801,955	

資金収支計算書

(単位:円)

	科 目	金 額
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,922,357,500
	手数料収入	94,618,447
	寄付金収入	64,031,893
	補助金収入	533,574,847
	国庫補助金収入	526,562,896
	地方公共団体補助金収入	7,011,951
	資産売却収入	6,273,598
	付随事業・収益事業収入	110,353,435
	受取利息・配当金収入	73,041,181
	雑収入	124,766,392
	借入金等収入	936,000,000
	前受金収入	814,289,045
	その他の収入	1,302,277,689
	資金収入調整勘定	△940,711,489
前年度繰越支払資金	3,611,630,129	
収入の部合計	11,652,502,667	
支出の部	人件費支出	3,002,006,098
	教育研究経費支出	1,687,592,148
	管理経費支出	444,854,629
	借入金等利息支出	19,607,911
	借入金等返済支出	412,100,000
	施設関係支出	1,408,840,742
	設備関係支出	129,568,806
	資産運用支出	1,049,530,600
	その他の支出	180,257,312
	資金支出調整勘定	△171,083,235
	翌年度繰越支払資金	3,489,227,656
	支出の部合計	11,652,502,667

サテライトスペースDemachi ※入場無料

●京都精華大学助手展2021
2021年9月1日(水)～9月11日(土) 12:00～19:00
〔休館〕9月5日(日)、9月6日(月)

京都国際マンガミュージアムイベント

- 「村上知彦コレクション」ミニ展示
開催中～2021年12月26日(日)
- 「線と言葉・楠本まきの仕事」展
Maki Kusumoto : lines, words, between and beyond
開催中～2021年8月30日(月)

〔休館〕毎週火・水曜 ※7月15日(木)～8月30日(月)は無休
〔時間〕10:30～17:30(最終入館時刻／17:00)

- オンライン展覧会
マンガ・バンデミックWeb展2021
※オンライン開催



〔問い合わせ先〕
京都国際マンガミュージアム
☎075-254-7414

第12回アジア研究国際大会(ICAS 12)

※Zoom等を活用したオンライン形式で開催

ICASとは、2年に1回各国主要都市にて開催される、アジア学を学際的な観点から論じる世界的規模の研究交流の場です。京都精華大学は、今回初めてとなる日本での開催における主催校に選定されました。詳細は今後の木野通信でもお伝えします。

2021年8月24日(火)～8月28日(土)

〔問い合わせ先〕
京都精華大学 グローバル推進グループ
☎075-702-5199

その他、さまざまな講演会や講座、展覧会を行っています。
情報は随時ウェブサイトにて更新していきますので、
下記のページをご覧ください。

- 公開講座
・アセンブリーアワー講演会
・公開講座ガーデン
ほか



活躍する在学生、卒業生の
情報を募集しています。

多数の在学生が社会貢献活動やコンテストでの受賞など広く活躍しています。詳細はぜひウェブサイトをご覧ください。また、今後も木野通信では、活躍する在学生や卒業生情報を紹介していく予定です。情報をお持ちの方は、広報グループまでお知らせください。

- 京都精華大学 ウェブサイト
https://www.kyoto-seika.ac.jp
- 広報グループ
kouhou@kyoto-seika.ac.jp



News

05



「京都精華大学サテライトスペースDemachi」
を2021年2月に開設

叡山電鉄株式会社との「包括連携協定」に基づき、2021年2月より出町柳駅ビル2階を、本学のサテライトスペースとして活用していくことになりました。開設記念に、同スペースにて卒業・修了発表展出品者を対象とした公募展を開催。会期中となる2月9日(火)には、叡山電鉄と京都精華大学による開設披露式を執り行いました。また、3月16日(火)～27日(土)には、京都精華大学伝統産業イノベーションセンター主催による企画展「染めの型紙にみる着物のデザイン 京都精華大学所蔵 田中直一コレクションから」を開催。以降もマンガ学部キャラクターデザインコースの研究発表展や、本学研究生の個展など精力的に行っています。ぜひお立ち寄りください。

News

06



新たな学びの拠点、
「愛智館(あいちかん)」が竣工

京都精華大学キャンパスの奥にある「風光館」の向かいに、新たな校舎「愛智館(あいちかん)」が竣工しました。4階立ての本館には、大小さまざまな講義室があるほか、三方が窓となった明るいラウンジや、80席あるパソコンルームなども完備されています。本館の名前の由来となる「愛智」は、「哲学」の原義になります。「哲学」という言葉は、明治のはじめに「フィロソフィー(philosophy)」の訳語としてつくられました。「フィロソフィー」は、ギリシア語の「フィロソフィア(philosophia)」から生じており、「知恵(ソフィア)(sophia)」を「愛する(フィレイン)(philein)」という意味になります。深く思索し、知にかかわる対話がなされる場となって欲しいという思いが、この新しい校舎には込められています。

News

03



高校生の創作活動を応援する
「SEIKA AWARD 2021」を開催

高校生の自由な創作活動の応援と新しい才能の発見を目的とした、第2回創作作品コンペティション「SEIKA AWARD 2021」を2021年3月に開催しました。2回目となる今回のテーマは、第1回に引き続き「自由」。昨年を大きく上回る1005点もの応募があり、さまざまな表現が展開されていました。厳選なる審査の結果、グランプリ1点、学長賞1点、優秀賞5点、奨励賞30点、入選115点をそれぞれ選出しました。入選作品・審査結果は、ウェブサイトにて公開しています。同コンペティションはさらなる発展をめざして、第3回「SEIKA AWARD 2022」の開催に向けて始動しています。

SEIKA AWARD



News

04



京都精華大学の研究成果をまとめた、
『京都精華大学紀要 第54号』が完成

『京都精華大学紀要』は毎年1回発行している、本学教職員と大学院生(博士後期課程)による論文集です。1991年に第1号を発行して以来、研究成果の発表の場として、本学の研究活動を活性化する役割を担っています。今回の54号からは論文のほかに、研究ノート、制作ノートも加わり、さまざまな領域に及ぶ18本もの研究や制作の成果が掲載されています。部数に限りがあるため一般配布は行っていないですが、全学研究機構のウェブサイトで全頁公開しています。本学の教育研究の成果の一部をぜひご覧ください。

全学研究機構 ウェブサイト



News

01



オンラインによる事前予約制で開催
「京都精華大学展2021ー卒業・修了発表展ー」

2021年2月11日(木)～2月15日(月)に、京都精華大学のキャンパスを会場にして「京都精華大学展2021ー卒業・修了発表展ー」を開催しました。本展示では、2021年3月に卒業・修了する学生たちが本学で培った技術や知識、表現力の集大成となる作品や論文を、広いキャンパス全体を使って展示しました。なお今回は、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底するために、オンラインによる事前予約制を導入。2月13日(土)・2月14日(日)に同時開催を予定していたオープンキャンパスについては中止としました。また同時に、「京都精華大学サテライトスペースDemachi」にて、2月8日(月)～2月23日(火)まで、本展示と連携した展示「京都精華大学展2021 PICKS!」を開催しました。

News

02



京都精華大学学長表彰
2020年度の受賞者が決定

同賞は本学の名誉を高める功績を収めた京都精華大学の関係者を表彰するものです。厳正な選考の結果、2020年度は下記の2名と1組が受賞しました。

【学長賞】
RALAMBOZATOVO Narianja Vololoniaina
(芸術学部 映像専攻 4年)

【学長特別賞】
鞍馬山倒木活用プロジェクト
(デザイン学部 建築学科の教員・学生によるグループ)

【卒業生功労賞】
おおのこうすけ(マンガ学部 ストーリーマンガコース 卒業)

～ご支援くださる皆様へ～ (ご寄付のお願い)

本学のさらなる教育・研究活動の充実、学生生活の支援のため、
温かいご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

●寄付募集Webサイト

<https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/donate>

クレジットカード決済、コンビニ決済、インターネットバンキング決済など、
手間の少ない便利な方法をご用意しています。



●リサイクル募金(旧称:古本募金)Webサイト

<https://lp.kishapon.com/seika/>

読み終えられた本やDVDに加え、貴金属、ブランド品、切手、年賀状、商品券などを
ご提供いただき、その査定換金額を京都精華大学に寄付いただく取組となります。

2020年度は、法人・個人あわせて総額63,717,909円(延べ445件)のご寄付をいただきました。
また、リサイクル募金は、合計313,984円分のご寄付となりました。2020年度は、新型コロナウイルス
感染症の流行を受けて、本学がおこなった種々の緊急対策支援に対し、学内外から非常に多くの寄付
をお寄せいただきました。保護者や卒業生の方々をはじめ、ご協力いただいた皆様、まことにありがとう
ございました。2021年度も、学生生活の支援として、新型コロナウイルス緊急対策支援を受け付けて
います。引き続き、ご支援・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

お問い合わせ

京都精華大学 経営企画グループ 寄付募集担当

E-mail: donation@kyoto-seika.ac.jp

TEL 075-702-5201 FAX 075-702-5391

『木野通信』送付先ご住所等の変更を希望される方は、
木野会ホームページの住所変更フォームまたはFAXで変更事項をご連絡ください。

京都精華大学 経営企画グループ 木野会事務局

<https://seikajin.com>

FAX 075-702-5391



表紙の作品

『愛とやすらぎのために』 2020年度 卒業制作

鈴木 大晴さん 芸術学部 テキスタイル専攻

素 材：綿糸、羊毛

サイズ：200cm×300cm

2020年9月、恋人の出身地である広島を訪れた際に足を運んだ「ひろしま美術館」のその場所が
持っている力、空気感、時間軸、作品は自分のなかにあるものをすべてリセットしたような気持ちにさ
せた。この運命的な出会いはその後の生活や制作活動にも影響を与えた。

この作品では、「ひろしま美術館」のテーマである「愛とやすらぎのために」と同じテーマを元にして
日々感じていることや自分なりの解釈を表現した。
(Instagram @i_luv_i_jah)

京都精華大学

芸術学部

造形学科

デザイン学部

イラスト学科

ビジュアルデザイン学科

プロダクトデザイン学科

建築学科

マンガ学部

マンガ学科

アニメーション学科

メディア表現学部

メディア表現学科

国際文化学部

人文学科

グローバルスタディーズ学科

人間環境デザインプログラム

ポピュラーカルチャー学部

ポピュラーカルチャー学科

人文学部

総合人文学科

大学院

芸術研究科

デザイン研究科

マンガ研究科

人文学研究科

木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第76号

2021年7月30日 発行

京都精華大学 広報グループ

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL 075-702-5197 www.kyoto-seika.ac.jp